

衛環研ニュース

Okinawa Prefectural Institute of Health and Environment News



所長 宮城朝光

この度、沖縄県衛生環境研究所（衛環研）所長を拝命いたしました宮城朝光です。就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昭和21年に中央衛生試験所として始まった当研究所は、戦後の劣悪な衛生状況から、フィラリアやマラリアの撲滅、寄生虫疾患対策など、公衆衛生の改善に取り組んできました。この半世紀に亘り、県民の健康保持増進に貢献できたのは、当研究所が創設当初から公衆衛生について科学的根拠を提供できる専門機関として旺盛な行政需要に対応し、それらに基づいて県民をはじめとして保健所など、関係機関の皆様の協力が得られたからであり、心から感謝申し上げます。また、70年代の公害問題から今日の環境課題に至るまで、その解決のために関係機関と密接な連携の下、調査研究、試験検査、研修指導及び情報の収集・解析・提供など、本県における科学的かつ技術的中核として、当研究所が果たしてきた役割は大きいものがあります。

しかしながら、20世紀に生じた公衆衛生及び、公害問題の多くが改善された一方で、21世紀においては新たな課題が惹起しております。豊かで便利な生活を享受する中で、ダイオキシンや環境ホルモンなど、人間が新たに造り出した汚染物質が私達のまわりに顕在化し、その悪影響が次世代

まで及ぶことが懸念されています。また、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊など、地球規模での環境問題は、一国だけの問題にとどまらず国際的な取り組みが強く求められております。さらに、国内では高齢化と医療介護問題、少子社会対策、新興・再興感染症の問題、依然として多発する食中毒など、保健衛生の課題も山積しております。

当研究所は国内や県内におけるこれらの保健衛生や環境保全の各課題について、それらを克服する一翼を担って行きたいと思っております。

また、本県特有の課題解決も大変重要であり、ハブ咬症と海の危険生物による刺・咬症対策、米軍基地から派生する環境問題や赤土汚濁防止の対策など、県民の健康と財産を守るべく調査研究も行っております。これらの課題についても解決に向け、これまで以上に努力が必要とされているところであります。

21世紀の初頭に当たり、当研究所の更なる発展のため、所員ともども目標達成に向け邁進する所存であることを申し上げ、着任のご挨拶といたします。



研究所庭のデイゴ

目次

CONTENTS

挨拶	1
ヒスタミン食中毒って聞いたことありますか？	2
卵には気をつけて	3
危険の少ないハブの操作法と測定法	4

公共水域水質の状況（河川）	5
リバーウォッチングをやってみよう	6
米軍原子力軍艦寄港に伴う放射能調査について	7
赤土汚染関係データベースの紹介	8